

岡山県真庭市寄江原・吉地区での モデル事業(地域管理構想)の取組状況

岡山県真庭市におけるモデル事業の取組について

OR5年度より、寄江原・吉地区において地域管理構想のモデル事業の取組を開始。R5年度は、こどもデジタルマップワークショップやフォーラムでの発表を経て、構想図案を取りまとめ。

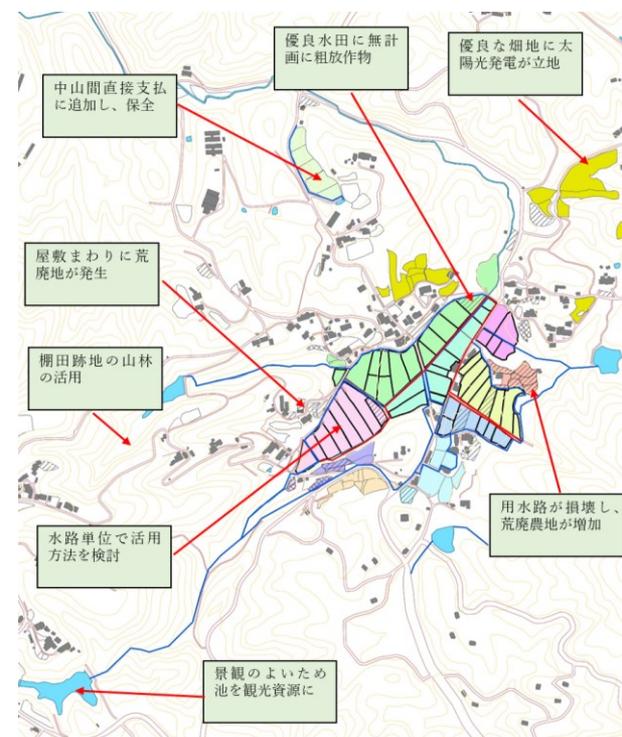
■対象地域：岡山県真庭市寄江原地区・吉地区

■地区概要：

- ・位置：鳥取県と県境を接する真庭市の南部に位置し、岡山市からは車で1時間、JR姫新線が走る。
- ・人口等：寄江原地区は人口395名（高齢化率約38%）の中間地域、吉地区は148名（高齢化率約50%）の山間地域。いずれも旧落合町に属する。
- ・地形：旧落合町は瀬戸内海に注ぐ旭川を使った木材の水運で栄えた。寄江原地区は、備中川沿いの水田地帯と背後の里山、吉地区は、吉備高原の北限に位置する。

■検討体制：真庭市落合振興局、農事組合法人寄江原、吉縁起村協議会

■土地管理上の課題：空き家や荒廃農地の拡大による鳥獣被害や太陽光発電設備の増大



土地利用構想図案



寄江原地区・吉地区の位置



吉地区の集落の風景

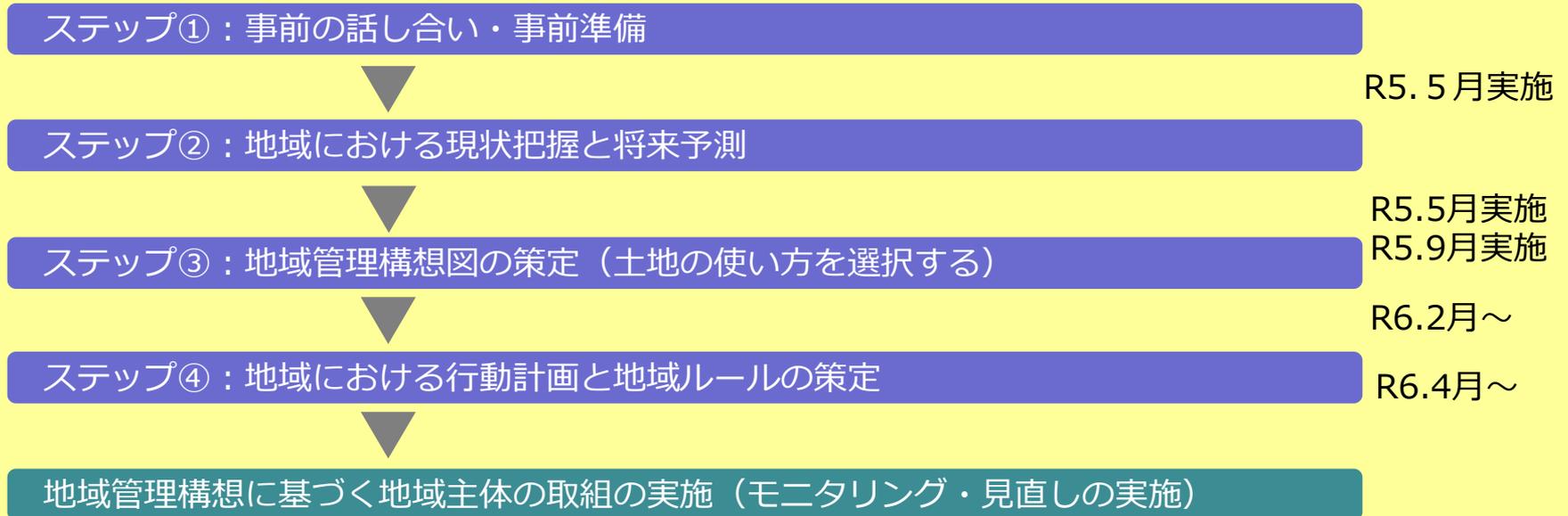


子どもデジタルマップ
ワークショップ(R5年9月)

【モデル事業の取組の経過】

- ・ R5.5月～ 地籍図データ、農地台帳、中山間台帳、森林簿などをもとにGISマップを作成。吉地区の住民と意見交換を行い、地域に必要な情報（水路、空き家、担い手）を把握。
- ・ R5.9月 地元の小中高生10名、岡山県立大学、岡山大学等の学生5名と地元学を実施。地域の詳細なデータを収集し、GISを完成させる実践型ワークショップを開催。
- R5.11月 農林水産省と連携し、中国四国ブロック農村RMOフォーラム（真庭市で開催）で、地域管理構想の取組を発表。
- R6.2月 R6年度の話し合いに向けた土地利用構想図案を取りまとめ。
* 寄江原地区においては、吉地区での成果を元に同様の取組を実施予定。

■真庭市吉地区における策定プロセスの進捗状況



- 令和5年9月2日に「GISとAIを使って村のデジタルマップを作ろう!」と題して、真庭市吉地区において、小中高校・大学生と地元住民が参画したワークショップを開催(参加者約30名)。
- デジタルネイティブ世代のこどもたちが、荒廃農地、空き家、一人暮らし世帯などをテーマに地元の人達と集落を歩き、収集した情報をデジタルマップ化するとともに、集落の将来像を生成AIを活用しながら一緒に考え、地域管理構想策定の機運を盛り上げ。
- 成果については、今後の地域管理構想の検討の基礎資料として活用予定。

※ステップ②：地域における現状把握と将来予測、ステップ③：地域管理構想図の策定(土地の使い方を選択する)に該当

○ 地図を片手に現地調査

小学生：村のお宝スポット
中学生：空き家・一人暮らし世帯
高校生：荒廃農地



集落の空き家の状態を調査



一人暮らし世帯の状況を聞き取り

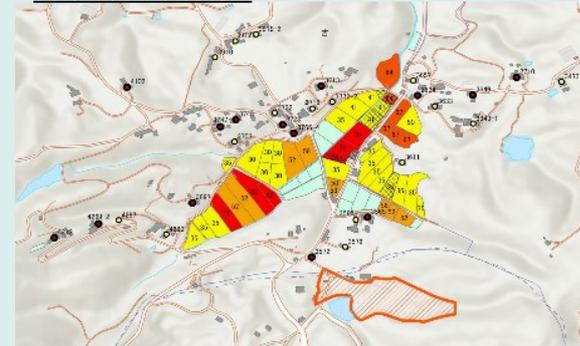


大学生がGISに入力



chatGPTを使って、村のキャッチフレーズを考える

○ こどもたちが集めてきた情報をデジタルマップ化



○ 話し合いの結果をグラフィックコーディングでまとめ

